

介護労働環境の国際比較研究（2）

—日本とデンマークの介護労働者の労働負担—

○ 大阪大学 石黒 暢 (2566)

齊藤 弥生 (大阪大学・3985)、吉岡 洋子 (頌栄短期大学・4736)

キーワード：高齢者介護、北欧、労働

1. 研究目的

介護現場の人材不足は、賃金の低さだけでなく、労働条件の劣悪さが大きな要因であるといわれている。介護保険で謳われる「利用者本位のサービス」では、利用者の立場に立ったケアを提供することが求められると同時に、サービスの市場化により経済的効率性が追求されるという相異なる側面があり、その狭間で苦悩する介護労働者が存在する。労働条件が劣悪であるにも関わらず質の高いケアの提供が要求される状況は介護労働者の心身の負担につながり、バーンアウト（燃え尽き）などの問題が深刻化している。

他の多くの先進国においても介護労働者のおかれている劣悪な労働環境が問題になっており、高福祉国家として知られている北欧諸国においても、介護労働の労働条件改善が大きな課題としてとりあげられている。

介護労働者の視点から現場の諸相を捉え、国際比較することを目的として、大規模な量的調査（通称：NORDCARE 調査）が実施された（2005年以降北欧4カ国と他3カ国で実施）。報告者らはこれらの国と日本の介護現場を比較分析するため、2012年に日本でほぼ同じ内容の調査を実施した。介護労働者を通じて介護労働の日常の現実(everyday reality)を把握し、国際比較することによって、日本の介護労働の現状を浮き彫りにすることを目的としている。

本報告では、同調査結果を用い、介護労働者の労働環境と労働負担に焦点をあてて考察する。

2. 研究の視点および方法

データは、前述のNORDCARE調査の調査結果を用いる。日本との比較対象として北欧諸国のうちデンマークを設定し、両国の介護労働者の視点を通じて高齢者介護現場の日常をとらえ、比較する。

Karasekらの理論によると、介護労働者のもつ仕事量や時間のプレッシャー、要求されるレベルなど、仕事で求められる要求度が高いことがストレスにつながり、さらに、自分で仕事の中身や方法などをコントロールする可能性が低ければ、介護労働者はさらに疲弊する(Karasek & Theorell 1990)。また、職場の同僚や上司との関係・サポートが良好か否かが労働環境に影響をもたらすことも明らかになっている(Johnson & Hall 1988)。そこで、本研究では、仕事の要求度、コントロールの度合い、同僚・上司との関係について分析し、比較検討する。

3. 倫理的配慮

日本調査は、大阪大学大学院人間科学研究科社会系研究倫理委員会の審査を受け承認を得た。

収集したデータは統計的に処理を行い、結果の公表に関しては個人が特定されることのないように配慮しており、上記の内容を調査票にも明記した。

4. 研究結果

日本の介護労働者はデンマークに比べて、強い身体的・精神的疲労を感じており、特に施設で働く人に非常に多い（常に勤務後の身体的疲労を感じている割合が85%）ことが明らかになった。また、過去12か月に退職を考えた人の割合も日本が高くなっている。自分の仕事にはやるが多すぎると感じている人の割合も日本で有意に高い。さらに、自分の能力より課せられた仕事のレベルが高いと感じている人はデンマークでは非常に少ないが（訪問介護 3.6%、施設 6.0%）、日本では訪問介護で 25.8%、施設で 43.0%いることがわかった。日々の仕事の内容に影響を与えることができると感じている人の割合にも両国で大きな差があり、日本では仕事の内容をコントロールできないと感じている人が多い。同僚・上司との関係をみると、仕事について同僚と話す時間をもてると回答した割合と、仕事についてもっとも近い上司からサポートを受けていると回答した割合は、日本のほうがデンマークより有意に少ない。一方で、必要な時には指導、助言、援助を受けられると回答した割合は両国で大きな差はみられなかった。

5. 考察

日本の介護労働者はデンマークの介護労働者と比して疲労度が高く、仕事の要求度が高いうえに、仕事に対して自分でコントロールする余地が非常に少ないことが明らかになった。同僚や上司との関わりやサポートも日本のほうが少なくなっており、とりわけ訪問介護で同僚と話す時間があまりないことがわかった。日本のホームヘルパーは多くが登録型など非正規雇用であり、利用者宅との直行直帰型の就労が多いため、同僚や上司からの組織的なサポートを得ることも難しいことがうかがえる。高齢者の要介護度が高くなり、認知症の割合も急速に増加しているなかで、時間内に終わらせるべき仕事は高密度化してきている。ケアの質は労働の質と密接に関連しており、介護労働者は適切な労働条件がなければ質の高いケアを提供することはできない (Trydegård 2012)。介護労働者が良好な労働環境で継続して働くことができるよう条件整備が求められている。 ※本研究は科学研究費補助金（課題番号 23330175）の助成を受けている。

<参考文献>

Johnson, JV & Ellen M. Hall (1988) "Job strain, workplace social support and cardiovascular disease". *American Journal of Public Health* 78, 1336-1342.

Karasek R. & T. Theorell (1990) *Health work: stress, productivity and the reconstructing of working life*. Basic Books.

Trydegård, Gun-Britt (2012) "Care work in changing welfare states: Nordic care workers' experience" *European Journal of Aging* 9, 119-129.